

令和7年度 審判員・記録員中央研修会
審判実務について

1. 攻守交代時におけるスピードアップ
 - ・ イニングの攻守交代は第3アウトの成立からはじまる。
【第3アウト成立から1分以内にプレイをかけるようにする】
【守備側チームに駆け足で所定のポジションにつくよう指導する。】
 - ・ 準備投球は、1分間を限度とし5 (3)球以内である。
【1分を越えそうなときはラストボールとコールする】
2. 投手の義務
 - ・ 投手は球を受けるか、球審がプレイの指示をしたのち、20秒以内に投球をしなければならぬ。
【ペナルティー】 打者にワンボールを与える。
 - ・ 打者が打者席にいて、投手が投球準備動作を始めなかったとき。
【球審の対応】 球審は「プレイ」のシグナルをし、投球を促す。
 - ・ 無走者のとき、捕手が直接投手へ返球しなかったとき。
【ペナルティー】 打者にワンボールを与える。
3. 打者の義務
 - ・ 打者にプレイを指示したのち、10秒以内に打撃姿勢をとらなければならない。
【ペナルティー】 打者にワンストライクを与える(投手が投球しなくても与える)
 - ・ 投球間にサインの確認や、素振りをするときは打者席内に片足を置いて置か なければならない。
【ペナルティー】 打者に対してワンストライクを与える。
 - ・ 次打者が打者席に入るのが遅れる、遅いときは次打者に早く入るように指示 する。
 - ・ 投手が軸足を投手板に触れたら、タイムを要求しないで打撃姿勢をやめたり、打者席を外したりさせない。もし投手が投球したら、球審はその投球を判定し、「ホール」または「ストライク」を宣告する。
【打者が途中で打撃姿勢をやめたために、投手が投球を中止しようとしたと きは、球審は直ちに“タイム”を宣告し、打者に注意をする】
4. 打ち合わせについて
 - ・ 選手間の打ち合わせは、1イニング1回とする。(原則の徹底)
5. 試合について
 1. 試合はスピーディに行われるよう努力する。(上記1に合わせて)
 - ・ 内野手のボール回しが長くないようにさせる。
 - ・ 打ち合わせは1分以内とする。
 - ・ タイムを取らなかったチームの打ち合わせは、タイムを取ったチームが打ち合わせを終了したときにやめさせる。
 - ・ トラブルが起きそうな時は、チーム側の申し出がある前に、他の審判員(審判主任を含める場合もある)と協議する。そして判定の正確を期する。

【注意】

 - (1) 自分の裁定のときは、他の審判員に聞かない。
 - (2) 落球が見えなかったときは、他の審判員が飛び込んで行って、正しい判定 をコールする。
 2. 攻守交代時ベンチ前に行って、選手の追い出しをする。
 3. 審判員が所定の位置に戻るときは、常に全力で戻る。
 4. 審判員が所定の位置に戻るときは、球の位置・走者の位置を確認しながら移動する。